国際交流事後活動ニュース

MACROCOSM

◎カラー特集　国際青年育成交流（地方旅行）
本文特集　プロトコールの基本

マクロコズム 2000.11

vol. 37

(財)青少年国際交流推進センター

国際青年育成交流（招へい）　～地方旅行より～

国際青年育成交流事業の招へいプログラムが、7月19日から8月12日の日程で実施されました。今年の地方旅行は7月26日から8月3日の期間で、受入れて下さったのは滋賀県、京都府、鳥取県、島根県、山口県の1府4県でした。継続して本事業を受けていただいている所も多く、様々な工夫が見られました。

滋賀県（オーストリア、ジョルダン）

◀ 県知事表敬

▼ 長浜キャノン工場見学

▲ 甲賀中学校への訪問。初めての習字に挑戦

京都府（デンマーク、エジプト、ロシア）

◀ 美山かやぶき美術館

▲ 友禅染体験

鳥取県（フィンランド、タイ）

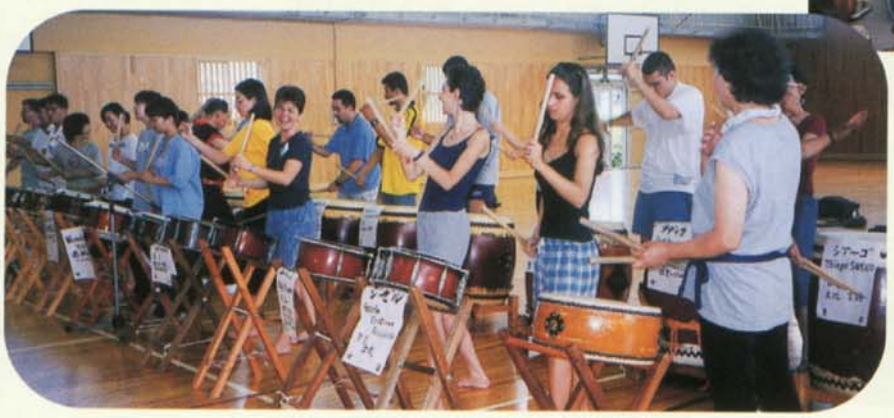
▼ 地元青年とのディスカッション

▼ フェアウェルパーティにて

島根県 （ブラジル、ハンガリー、トルコ）

◀ 手作り工芸体験で藍染に挑戦！

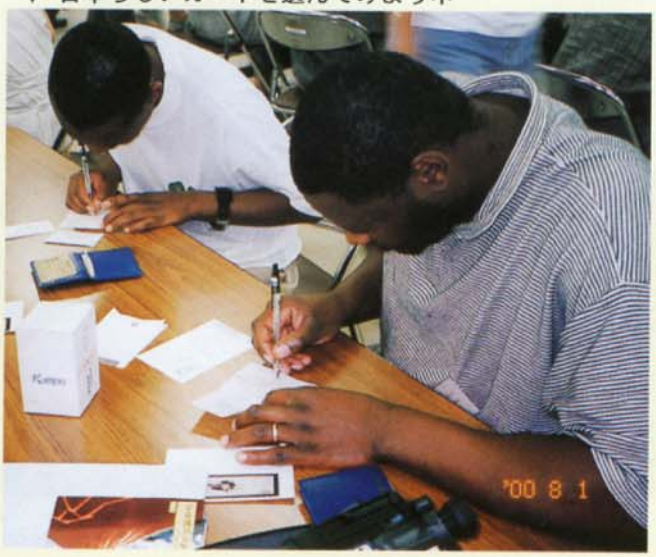
▲ 夏期 SEPA スクールにて小学生と交流



山口県 （フランス、インド、ジンバブエ）

保育園（福川保育園）にて子供たちとの交流
▼ 幼くても好奇心一杯で外国青年と仲良く

日本から手紙を出そう！
▼ 日本らしいカードを選んでみようネ



「第29回青少年国際理解セミナー」意見発表より

日韓民間交流への提言

㈳韓国青少年交流振興協会会員
Park Young Ju （パク　ヨンジュ）

従来、日本と韓国の関係を表す言葉で最も多く使われたものは「近くて遠い国」だったと思います。このような言葉の意味は、韓国と日本は地理的に近い国でありながら、歴史的な面から言えばまだ克服されていない相互関係をもつという否定的な部分が存在すること、互いに理解不足から招かれる偏見や先入観を多くもっていることではないかと思います。

韓国人の意識の中には、日本は最も親しくするべき国であり、見習うことが多い国でありながら、同時にもっとも警戒しなければいけない国でもあるというイメージが残っています。それは歴史の中で見る否定的なイメージの日本が韓国人の意識の中には存在しているからであります。

しかし、最近このような意識に変化が起こっています。このような変化をもたらしたのは、今まで相互友好増進のために努力してきた結果だと思

▲ 全体会で発表する朴さん

います。では、21世紀国際化の時代にこのような否定的な面を克服し、より肯定的な関係形成を通して相互友好を深める方法について考えたいと思います。

長い歴史の中で日本と韓国は多様な交流が続いてきました。最近では両国の親善を図る方法を積極的に模索しています。多様な文化交流と人的交

主な内容

青少年国際理解セミナーより……5～7
日韓民間交流への提言
韓国留学体験記「心に残る一言」……8～9
モザンビーク洪水災害医療救援活動 …9～11
プロトコール（国際儀礼）の基本 ……12～15
岡山青年国際交流会（新人研修会）……16
ブロッック大会のお知らせ ……17
総務庁青年国際交流事業報告会 ……18
青年海外協力隊の募集 ……19
インフォメーション ……20

〈表紙の説明〉
第13回「世界青年の船」
～岩手県の受入れより～

流が増えていることに対しては両国の友好増進の面で高く評価したいです。しかしこのような交流において何より大事なことは、相手の国に対する正しい知識を基盤とする理解ではないでしょうか。

日本と韓国は長い間互いの歴史に大きい影響を及びながら関係を築いてきたけれど、相手に対する正しい歴史認識とそれを理解しようとする努力が欠けていました。政治・経済的には緊密な関係が形成されても、相手に対する否定的な認識が強ければ強いほど、心からの友好関係は築けないと思います。これから互いに信頼感を高めるためには両国の正しい歴史を理解しようとする努力が必要であり、それを基盤とすれば両国の間により強い絆が結ばれることになるでしょう。

より緊密な日韓関係をつくるためには、このような歴史的認識と理解を基に相互交流の機会を増やさなければなりません。特に、若い世代の多様な交流は両国の関係を緊密にするのに最も効果的であると思います。青少年は偏見をあまりもっておらず、反対に同世代の間に共有できる文化を多くもっています。言葉と生活習慣は違うとしても、相手を受け入れやすいから共感するものが多く、コミュニケーションがよく取れることによって、より親しみを感じると思います。これから21世紀を担う若い人達が共感できる交流の場をたくさん提供することによって、両国の未来はより明るくなるのではないでしょうか。

また、文化交流において大事なことは文化の相対性を認めることです。ナショナリズムまたは文化的事大主義などに片寄ることなく、ありのまま、相手の視点から見て相手を認めることと理解しようとする平等主義が前提になれば、異文化に対して正しい理解ができると思います。

日韓両国の文化は互いに異なる生活環境の中で築かれたものだから相互異質性をもっています。また歴史的に緊密な関係をもっているので同質性も多く見えます。だから相手の文化を相手の立場で肯定的に認め受け入れる姿勢が必要であり、同質性を分かち合うことによって、もっと親しみを感じられると思います。このような交流の機会をより多く提供することによって相互友好関係が深まることでしょう。

そのためには政府間、また民間レベルの交流を活性化するために、安定的な財政の確保とより自由に往来できる与件を具備することが必要です。例えば、韓国人が日本へ来る時に必要なビザの問

▼ 分科会にて

▼ 新宿区立戸塚第三小学校の職員室見学

題は、以前から交流活性化のために提議されたことだと聞いています。日韓友好増進のためには、この問題に対する日本側のより積極的な改善意志が必要であり、この問題は相互友好増進交流と相互信頼関係が増進されることに従って解決されるのではないかと期待しています。

続いて、日韓交流において具体的な方法について話をしたいと思います。

まず、互いに共有可能な文化を見つけ出すことです。勿論、両国の伝統文化をおろそかにしてはいけませんが、自分の伝統文化を理解させようとすることよりは、現実の生活の中で共感できる文化を優先的に交流することが必要なのではないでしょうか。過去よりは現在の生活の中で親しみが感じられる時に交流の効果はより大きくなると思います。

実際、日韓共同のスポーツを開催するとか、公演、映画、ファッションショーのような芸術活動に参加する、または国際的な青少年イベントや学術会議、海外ボランティア活動などに共同参加するのはいかがでしょうか。勿論、現在このような活動は行っていますが、より活動の幅を広げて行こうということです。このように直接共同で参加することは、共通の目標を共有するという意味で最も親しみを感じ、相互理解と協力のきっかけになると考えます。

また、交流の推進を政府だけではなく地方自治体、民間団体、各教育機関などに拡大しなければなりません。政府レベルの公式的な交流も重要なことですが、民間レベルの直接交流は互いに人間的なふれあいを通して先入観による異質感を無くす最も良い方法だと思います。ホームステイ、訪問交流のような交流の機会を提供することは形だけではなく直接体験と共感ができる機会であり、それを通じて両国の友好関係は大きく前進すると思います。

私も今回の訪問中に日本の人と直接会って、話をすることにより日本人に対するより深い理解と良い印象をもつようになりました、そして、このような交流の機会が継続的に提供されることと、相互友好関係をより深めるような制度的サポートが必要であると感じました。

相互情報交換システムを構築し、インターネットを通じた相互情報交換と交流を持続的に行い、各個人の日韓交流資源として活用することによって、その効果はより高まると思います。

このような努力を通じて日本と韓国が「近くて最も親しみがある隣国」として、両国民の心の中に位置づけられることを願います。

◀本所防災館で消火訓練

▶ホストファミリーと自己紹介

韓国留学体験記「心に残る一言」

及川ひろ絵
（11年日韓交流参加）

皆さん、お久しぶりです。99年度の日韓親善交流事業に参加させて頂いた及川です。

今年1月の総務庁帰国報告会が終わるや否や、また韓国に飛んで参りました。今回までの訪韓では最長でも3週間程度の滞在しかしていなかったのですが、念願かなって約半年間、語学研修に行って来ました。韓国へは何回か行っていたものの、朝鮮・韓国語としての言葉の勉強は初めてでした。特に最初の3か月間は、今まで生きてきた中で最も勉強に集中できた時期（大げさな!?）だと思います。というのも、言葉が通じない、困った！という環境の中で生活できたからだと思います。それは、韓国人女子学生6人と共同生活をしたことに起因すると思います。

私は小さい頃からクリスチャンホームで育ってきたのですが、その関係で教会の中にある、地方から出てきた学生の為のシスターズハウスというところに住まわせてもらうことができました。正直に言うと、日本ではいわゆる真面目なクリスチャンとは言い難い私でした。ですから、シスターズハウスに住むのも気が進まない部分もありましたが、語学の勉強の為に…なんて考えていたと思います。

シスター達は英語を専門としている学生がいなかったこともあり、彼女達との会話は専らジェスチャーと韓国語の他ありませんでした。共同生活するとなると、いろいろな細かい問題も出てきて、今までの訪韓での‘お客さん’として扱いとは違います。何とかして彼女達とコミュニケーションをとらねば！との思いで身が入った勉強ができたのだと思います。そんな生活が始まって2か月目にさしかかろうとしていた時、事件は起こりました。

何かお腹が痛いなぁーとその日の1週間程前から感じてはいたのですが、きっとそのうち治るだろう、とのん気に構えていた時、その日はやってきました。激しい腹痛に襲われ病院へ担ぎ込まれると、盲腸が爆発し腹膜炎に見舞われている疑いがあるとのことで即刻手術が必要だ、と言われました。エッ！何だって!!こんな経験をするとは。しかも外国で…。無事手術を済ませたものの、2週間の入院が必要だと言われました。

まだまだ言葉が通じない中で、心の中は不安で一杯でした。けれども、この時が今まで生きてきて最も幸せでした。それは、同じ部屋で暮らすシスター達が毎日交代で私と一緒に病院に泊まり、看病してくれたからでした。それだけでなく、教会の方々や学校の友人、交流事業で知り合った韓国の友人達、たまたま旅行に来ていた日本の団員達が毎日、入れ替わり立ち代りお見舞いに来てくれ、私がいた病室は花で一杯でした。こんなにも多くの方々がこんなにちっぽけな私の為に助けを差し延べてくれる、と思うと心の中は感動で満た

▼ 前列左から2番目が本人（韓国にて）

されました。

私が感謝の言葉を言うと、決まってシスター達は言ってくれました。「ウリヌンハナエヨ（私達は一つ）」だから気にするな、これは当たり前のことだ。」また、シスター達はこの言葉を通してこう言いたかったのだと思います。「私達は一つ屋根の下に一緒に住んでいる一つ家族なんだよ。だから韓国人も日本人もここでは一つだよ。」と。

共同生活をしていたものの、それぞれ忙しくなかなか一人一人と向き合って話す時間がそれまでは無かったのですが、この機会を通してじっくりと話し合うことができました。それぞれの抱えている悩み、将来について等々、互いに意見を言い合うことで、互いに対する理解を深めることができたと思います。退院後の生活はこの経験があった為、自分そのままを出してシスターズハウスで何かの問題が合った時にぶつかることができました。それも「ウリヌンハナエヨ」この言葉があったからでした。韓国にもう一つの家族ができた、と感じています。

この経験を通して、さらにもっと韓国にはまっています。また韓国に行くつもりで往復チケットも買ってきました。

皆さんもそれぞれのご経験の中でいろんな形での交流をされてこられたと思います。でも、最も心に残るのはやはり人と人との交流ではないでしょうか。たくさんの人と人の交流の輪が国際関係を築いていくのだ、と改めて考えさせられました。今後も多くの家族を世界中に作れるよう、邁進していきたいと願っています。

モザンビーク洪水災害医療救援活動

～国際協力の現場から見えたもの～

災害は、時や場所を問わずに起きる。そして、私たちが想像をしない大規模の被害と悲しみを人々に与える。被災者を救出、ケアし、一日も早く復興ができることを願い、個人、団体あるいは、各国政府や国際機関は救援活動を行う。被災地における救援活動の現場は、厳しい環境の中、敏速かつ適切な支援をしなくてはならない。また、外から来た救助者たちの協力だけで活動するのではない。より、有効（友好）的な活動を行う上で、被災者たちの協力が不可欠である。

私は、今年3月中旬から2週間、「国際緊急援助隊・医療チーム」（以下、JMTDR）の医療調整員として、モザンビーク洪水災害の救済活動に従事した。私にとっては、昨年11月のトルコ北西

▲ JMTDRからモザンビーク側に寄贈した医療機器、薬品について保健省職員に説明する筆者

部大地震の救援活動に次ぐ二度目の派遣だった。

モザンビークは、今年1月からサイクロンと集中豪雨に襲われていた。2月に入ってから、モザンビーク政府は、国際社会に支援を要請した。そして、国連や日本などが支援をはじめた。しかし、この間もサイクロンは、現地を襲い、事態はさらに悪化した。そして、人口約1,800万人のうち200万人近くが、洪水の被害にあった。3月、モザンビーク政府は、日本政府に医療チームによる支援を要請した。その要請に応えて、日本から医師、看護婦・士、医療調整員など計19名が派遣されることになった。

私たちは、成田から香港、ヨハネスブルグを経由して首都マプトに入った。マプト国際空港到着前に、私たちに見えた風景は一面大きな沼地や湖のようになった村々だった。それは、被害の深刻さを語っていた。空港では、まず救済活動に従事している南アフリカなどの軍用ヘリコプターや兵士の姿を見た。彼らは、世界中から送られてくる物資の輸送をしていた。長時間のフライトから開放された日本からのチームは、ビレーネに向かった。

ビレーネに到着後、機材や薬品の仕分けなど翌日の準備をはじめた。翌朝、総重量2トンにも及ぶ医療機材と薬品をトラックに積んだ。そして、私たちが活動するガザ州ホクウェイに向かった。この村は、丘の上に位置していたため、周辺の村々から多くの被災民が集まっていた。しかし、周辺の村が浸水しており、ここは陸の孤島となっていた。そのため、外からの支援はヘリコプターによる物資配給だけだった。さらに、もともとこの村はヘルスポストと呼ばれる保健所のような施設（しかし、設備はほとんどない）と衛生士および看護婦しかいない無医村だった。

私たちは、村に行く途中にある大きなキャンプで活動している、スペイン軍の医療隊と協力体制をもった。そのキャンプを通り抜けて、さらに1時間ほど無舗装の茂みの中を走り、ようやく村のヘルスポストに到着した。そこには、私たちの予想を遥かに越えた人々が待っていた。中には、いち早く診察が必要とされる患者もいた。私たちは早速、テントを張り、機材と薬剤をセットした。

連日、炎天下の中何時間もかけてテントを訪れる人々の列が途絶えることはなかった。モザンビークは、もともとマラリア汚染地区だったが、洪水で水がいたるところに溢れ、蚊の発生とそれによるマラリア感染が増えることが恐れられていた。私たちのテントでも、マラリア検査を行い、多くのマラリア患者が診察を受けた。しかし、残念ながら亡くなるケースもあった。

亡くなった子どもの一人は、双子の兄弟の一人だった。私は、その日の診察を終えてから車で、遺体と母親、双子の兄弟と共に家まで送ることに

◀ JMTDRのメンバー

なった。

当初、幼い子供を連れて来たのだから、テント周辺に住んでいると思った。しかし、その予想は外れていた。車は、村の中心を離れ、奥へ奥へと進んだ。草が自分の背丈よりもはるかに高く茂った、めったに車が通ることがない道を進んだ。私たちの診療テントから15キロ以上離れたと思われるところに小さな集落が見えた。母子の親しい人たちに迎えられて、彼らを家に届けると、私と同行していた現地語通訳は家に入れてもらった。中には、亡くなった子どものおばあさんがいた。私は、通訳を介して彼女と少し話をすることができた。そして、「生」と「死」、「人間」と「信仰」について考えながら、チームへ戻った。さらに、それから数日後、母親と双子の兄は、再び私たちのテントを訪れた。彼らを見たとき、私たちの間に信頼関係が築けたのではと感じ、とても嬉しくなった。

私の主な仕事は、患者から簡単な症状を聞いたり、体温を測ることも含めた受付業務及び、カルテ管理だった。毎朝、テントには数百人の人々が私たちを待っていた。診療準備を整え、受付を開始するころには、私の目の前には人の波が打ち寄せてくるような勢いを感じた。彼らに列を作って並ばせることも、容易なことではなかった。

ある時、2列だったはずが、いつのまにか3列になっていた。それは、文化的要因で男女混合の列を作らない彼らが、女性と子供の数が多いため彼女たちが自然と2つに分かれて列を形成したからだろう。「一人でも多くの患者を助けたい。炎天下で待つ彼らを少しでも楽にしたい。」水も飲まずに、仕事に専念した。時には、気が焦ることもあった。しかし、安心を与え、ミスを出さないためにも落ち着いた対応を心がけていた。なぜならば、受付は、彼らが最初に私たちチームと接する場所であり、第一印象を与えるところだからである。

活動を開始してから数日後、地元の男性がテント前に来た。彼は、それから毎日ボランティアで受付前に並ぶ患者の整理をしてくれた。時には、受付の順番を待つ患者からの質問に対応してくれた。彼のおかげで、受付前で、混乱が起こることもなく、以前よりも早く、スムーズな受付をすることができた。

私たちの活動には、もう一人の青年ボランティアがいた。彼も被災した一人だった。彼は、周辺のガイドと通訳をしてくれた。私は、彼と活動地周辺の地図製作と物資配給所及び被災者のリーダーのインタビュー調査に出かけた。彼は、単なる通訳ガイドではない。彼自身が被災者の気持ちをよく理解している一人だった。そのおかげで、スムーズに周辺調査を行い、また私自身、被災した女性たちや家族と短い時間ではあったが交流することができた。はじめは、興味深く不思議そうな眼差しで私を囲んで見いてた人々たちと、共に笑うことができた。首都から来た通訳にはあまり心を開かなかった彼らも、地元の人がボランティアで活動に関わったことを機に、安心と信頼を感じたのだろう。

被災地での活動は、2週間と限られた短い期間ではあった。活動を終えてまもなく半年が経過する。しかし、彼らとモザンビークに対する関心は消えない。国際緊急援助は、災害発生国や地域そして災害の種類によっても、対応の仕方は変わる。しかし、相互理解と信頼関係を築くことは、国際協力の現場に限らず常に大切なことである。またそれは、国際交流や日々の場面でも同じだ。

前回のトルコ及び今回のモザンビークへの派遣により、人間として大切なことをいろいろと学ぶことができた。今後は、この経験を幅広く活かして活かしていきたい。

現在の日本社会では、形式的なことを省くことを良しとする傾向にあると言えるでしょう。

しかしながら、形式とは、時に伝統の継承であったり、その民族の文化や考え方を形に現していることもありますし、異なる思考や行動様式を持つ人々の集団が、一定の秩序を保つために生み出されたものであることも多いのです。多種多様な国際社会においては、ちょっとした行き違いが戦争にまで発展してしまいかねないのです。その形式や約束事が持つ本来の意味を知らずに排除してしまうことは、社会に混乱を招くもとになることを認識すべきですし、基本を知っての上で、時に不要な部分を省くことは必要しょう。

もし、その形式が現在に合わないものであるならば、ただ排除するだけでなく新たなる形式を作り上げる智恵が必要なのではないでしょうか。ここでは、皆さんに国際交流活動を行っていく上で、これだけは知っておいて欲しいという国際社会の約束事の基礎的な一部を取り上げてみました。これを機会に、少しプロトコール（国際儀礼）について勉強してみませんか。

プロトコール（国際儀礼）の基本

プロトコール（Protocol）とは、国際間のエチケットのことです。特に、国家間の儀礼上のルールを指し、厳密な定義はありませんが、国際的な交際の場合は、歴史的、文化的、言語的に大きな相違があるため、とかく誤解や不信が芽生えやすいことから、相互に尊重するべき最小限のルールとして生まれてきたものです。

＊プロトコールの基本的考え方

1．相手に敬意を表すこと
2．同格者を平等に遇すること
3．弱者と強者を区別しないこと

Ⅰ　上位席……右上位が基本（向かって左が上位となる）

① 国　旗……外国旗が向かって左側
② 自動車……後部座席右奥（運転手が職業運転手の場合）
③ 飛行機……前方右側（一般的）
④ エレベーター……入って左側の奥（内部からみて右隅）
⑤ 応接セット……長ソファーの右側

⑥ 室　内……基本的には、入口に近い方が下位

(1) 日本間……床の間のある方が上位

(2) 洋　室……マントルピースのある方が上位。マントルピースがない場合は、入口を下位として、その正反対側を上位。入口の反対側を上席とすることが不適当な際は庭に面した壁側を上位とし、庭を背にした側を下位

Ⅱ テーブル・マナー

① 気をつけたいこと

- 正しい姿勢で。
- 音をたてない（特にスープを飲む時は気をつける）、口を閉じて噛む。
- 楊枝を人前で使わない。
- 早飯に気をつけよう。
- タバコを吸うならデザートコースが終わってから。
- 食卓の上にあるものを取りたいときは、手を伸ばして取らず、奥の人に回してもらう。
- 押し黙って食べないように。ただし、食べながら話さない。（口の中に残っている食べ物を飲み込んでから話す。）
- 粗相は慌てず給仕に始末をしてもらう。
- レディ・ファーストを忘れない。
- トイレは事前に。

＊立食パーティの際は、皿を持って食べながら歩かないこと。

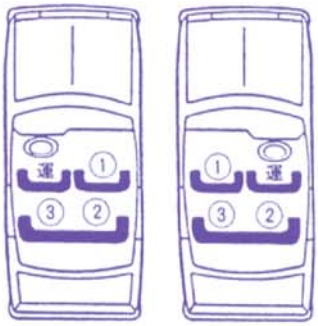
② 服　装

- その場に相応しい服装を……平服と言われても、基準が違う。
  夕食では、特に注意（女性のスカート丈等）
  公式な席へのGパンTシャツは厳禁

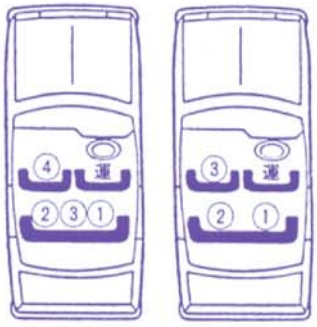
車の席次

国際慣例では、運転手が右である左であるを問わず、後席右が最上席とされています。しかし、日本のように車寄せが左であることが多い場合、後席右に上位者を座らせるのは難しいので、一応断って下位の者が車の後ろをまわり、後席右を占めてもやむをえません。

〔オーナードライバーの場合〕



〔職業運転手の場合〕



プロトコールの中でも最も注意すべきは、国旗と国歌の扱いについてです。しかし、日本人は、今やこの点が弱点と言ってもいいくらいに知らなさ過ぎるというのが実態でしょう。その問題点については、ここで論じることはしませんが、心得ておくべきいくつかをご紹介しておきます。

世界の国々の多くが多民族国家であり、国旗や国歌は、その国をまとめていく上で象徴として大きな役割を果しています。国旗や国歌を軽んじることは、その国を侮辱することにつながるということを肝に命じておきましょう。そして、自国の国旗や国歌を軽んじる姿は、軽蔑されることさえあるということも。

国旗、国歌について

Q 1　外国旗を掲揚するとき、日本国旗を併揚しなければならないのは？

A　国旗は国のシンボル。したがって、外国旗だけ掲げることは、その国の支配に従うことを意味する。

Q 2　日本国旗と外国国旗を併揚する場合は？

A　原則として自国旗に最優先権が与えられる。しかし、日本では、特に外国に敬意を表すという意味から、外国旗をポール又は壁に向かって左側（上位席）に、日本国旗を右側に掲揚するのが一般的（アメリカやフィリピンなど自国優先主義をつらぬいている国もあるので、外国に行った際は注意。）

Q 3　日本国旗と外国国旗の掲揚順序は？

A　敬意を表する旗ほどポールに掲揚されている時が長い。

外国国旗に敬意を表する場合は、外国国旗を先に掲揚し、下げる時は外国国旗を後。国旗と他の旗では、国旗を先に掲揚し、後に下ろす。

Q 4　3か国以上の国旗を掲揚する場合は？

A　3か国の場合は、自国旗を中央に、他の2か国は、国連方式による国名アルファベット順に従って先順位の外国国旗を自国旗の向かって左側、他の1国の国旗を右側に掲揚する。

4か国以上の場合は、通常、国連方式による国名アルファベット順に従って、ポール又は壁に向かって左から右へ羅列してゆく方法が一般的。

Q 5　国旗と団体旗、地方自治体の旗の併掲は？

A　国旗とその他の旗は同列に扱わないのが基本。

併掲する場合は最上位に国旗を掲揚（一番高いポール、複数ポールの中央、向かって最左端など）国旗以外の旗は小さくするなどの工夫を。

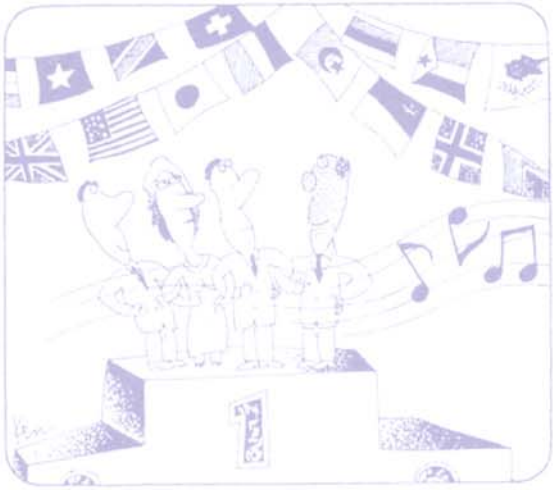
Q 6　国旗掲揚や国歌演奏中にとるべき姿勢は？

A　起立、男性は脱帽し帽子を右手に持って胸にあてる（軍服、制帽の場合は被ったままでよいが、挙手

をする）。帽子を持っていない男性は、右手を胸にあてるか、両手を自然に下げる。女性は、右手を胸にあてるか、両手を自然に下げる。会話や身動きはしないこと、また、歩行中の場合は、国旗掲揚や国歌演奏が終了するまで立ち止まる。

Q 7　国連旗、五輪旗など超国歌的性格、または世界共通旗の扱いは？

A　各国旗より上位の扱い。
ポールが正面に向かって横一列に設けてある時、また円形になっている際は、左から始めて右回りに掲揚。1本の場合は中央、2本の場合は両端に掲げる。



Q 8　他国と自国の国歌の演奏順は？

A　他国から客を迎える時は、その国に敬意を表して他国国歌を先に。
ただし、アメリカでは、自国国歌がいかなる場合も他国国歌より優先。

〔参照図書〕

やさしい国際儀礼　プロトコールQ＆A（外務省外務報道官　編集／「財団法人　世界の動き社」発行）

新人研修会

岡山青年国際交流会事務局長
安藤　恭子

当会では、平成9年度より新入会員研修会を行っています。なぜなら、平成8年度までの会員は主に、岡山県からの海外派遣事業の参加者及び、総務庁青年国際交流事業の参加者でした。しかし、平成9年度より岡山県の財政の関係で派遣事業が休止になり、様々なイベントを一般の情報誌、新聞などに掲載することで、主に一般からの会員が増えてきたからです。そこで、当会の成り立ち、目的などを新入会員の方に説明する機会をもつために、新人研修会を開催することになりました。

この研修会のプログラムは以下のとおりで、当会の成り立ち、概要、目的、会則、その年の活動方針や計画、会計報告と会費納入などについて事務局の進行で行います。親団体である日本青年国際交流機構の概要説明も行っています。

また、最後のプログラムでは新入会員とその日手伝って頂いた会員の方に、事前に考えてもらった当会で行いたいイベント企画を発表し、参加してもらいます。イベントの目的、内容、簡単な予算までたててもらいプレゼンテーションをします。毎年なかなか面白い企画が多く、「さすが自分から進んで会員になって下さるだけあるなぁ。」と感心しています。平成10年度には、この研修会で提案のあった企画が実現し、『DANCE THE WORLD』と名付け岡山県滞在の留学生や企業からの研修員の方に大勢参加頂き世界の踊り（中国、インドネシア、ブラジルなど）をみんなで踊り明かしました。日本からは沖縄出身の方が地元の踊りを教えて下さいました。大変盛り上がり、会員を始め、岡山県の一般の方々と交流できた良い機会になりました。

このように、新入会員研修会は、新入会員を始め既会員にとっても、会のあり方を見直す良い機会になっています。新入会員の方は、何か当会に魅力を感じ、何か得るために会員になって下さっていると思います。その意識をより良い形で当会に反映し、気持ち良く参加して頂くためにも、この研修会は毎年行いたいと思います。内容は、もう少し考える余地があると思います。また、そのためにも当会の理事をはじめ、会員のレベルアップも重要と考えられます。当会では、新入会員に限らず、理事や会員の研修を行うことを平成11年度から活動計画に盛り込んでおります。

平成12年度は、より良い形で会員の意識を向上し盛り上げて行きたいと思っています。

時　間	研　修　内　容	備　考
	事務連絡	事務局
13:00～13:10	開講挨拶	村木会長
13:10～14:00	自己紹介	
14:00～14:30	IYEAOの成り立ち　他団体との関連について	吉岡副会長
14:30～14:45	休　憩	
14:45～15:15	岡山青年国際交流会の活動内容	川井副会長
15:15～15:30	IYEAO規約・運営・会計状況	事務局（武、安藤）
15:30～16:30	企画研修（発表、意見交換）「地域で出来る国際交流イベント」	参加者
16:30～17:00	意見交換、連絡網作成、その他　閉講挨拶	事務局　村木会長

平成 12 年度
「航空機による派遣」・「世界青年の船」事業　帰国報告会のお知らせ

平成 12 年度、総務庁青年国際交流事業に参加した青年と交流して、新しい世界を発見しましょう！

◇第 30 回青少年国際理解セミナー◇

◆◆「国際青年育成交流」「日中・日韓青年親善交流」帰国報告会◆◆

平成 13 年 2 月 4 日(日)

「国際青年育成交流」事業「日本・中国青年親善交流」事業「日本・韓国青年親善交流」事業の全参加者による帰国報告会です。オーストリア、ブラジル、デンマーク、フィンランド、ジョルダン、タイ、ジンバブエ、中国、韓国の９団が団結して平成 12 年度オリジナルの報告会を作り上げます。

○第 31 回青少年国際理解セミナー○

◆◆◆第 13 回「世界青年の船」帰国報告会◆◆◆

平成 13 年 2 月 11 日(日)

世界 15か国の約 150 名の外国人青年と交流した経験を、さまざまな形で皆さまに表現します。ロシア、アメリカ、トンガ、ニュー・ジーランドの４つの寄港地活動報告をご期待下さい。上記以外に、カナダ、チリ、コスタ・リカ、エクアドル、フィジー、メキシコ、オランダ、パラグアイ、スペイン、タンザニア、ベネズエラ、とバラエティーに富んだ青年たちが参加しました。日本人参加青年との外国人青年の交流の世界を一緒に覗いて見ましょう。

★いずれの報告会も下記の通り行います。

場　　所 ： 国立オリンピック青少年記念総合センター
国際交流棟・国際会議室
小田急線「参宮橋」下車　徒歩７分
時　　間 ： 12:30～16:30（予定）
参 加 費 ： 無　料

平成12年度ブロック大会について

平成12年度IYEOブロック大会は、北海道・東北、関東、中部、四国、九州の各ブロックで既に開催され、各ブロック内の団結が更に深まり、２１世紀に向けて新たな活動を始める土台が着々と築かれつつあります。今回ご案内する近畿・中国ブロック大会にもお誘い合わせの上、是非ご参加ください。また、他ブロックからの参加も大歓迎ですので、是非ともご参加ください。

＜近畿ブロック大会＞

大阪で開催される今年度の近畿ブロック大会の目玉はなんと言っても海遊館ナイトツアーです！その他大阪ならではのパワー溢れる企画をご用意しています。皆さんのエナジーを一緒に爆発させましょう！！

◆ **開催日**

平成13年1月27日（土）～ 28日（日）

◆ **開催場所**

海遊館ホール　　大阪府大阪市港区海岸通1-1-10

（宿泊先：シーガルホテルてんぽーざん大阪）

◆ **主な内容**

特別講演・海遊館ナイトツアー・国際交流事業帰国報告会等

◆ **問い合わせ先**

実行委員長：　木戸　稔子

Tel　0724-71-1504　　E-mail　fwiz7886@mb.infoweb.ne.jp

＜中国ブロック大会＞

今年度の中国ブロック大会は岡山県で開催されます。国際交流事業参加者報告会や懇親会を予定。また、岡山青年国際交流会オススメの岡山県内のとっておきスポットを案内するオプショナルツアーを企画しています！

◆ **開催日**

平成13年1月27日（土）～ 28日（日）

◆ **開催場所**

和気鵜飼い谷温泉　　岡山県和気郡和気町益原６６６－１

◆ **会費**

大　人　１０，０００円（一泊二食付き）　非宿泊　６，０００円

＊オプショナルツアーは別途

◆ **問い合わせ先**

実行委員長：　落合　豊　090-9506-7507

副実行委員長：武　宏典　090-8603-9601　E-mail：hironori-t@mx9.tiki.ne.jp

（岡山青年国際交流会ホームページ：http://ww1.tiki.ne.jp/~iyeao）

青年海外協力隊「平成12年度秋の募集」について

青年海外協力隊は、国際協力事業団が実施する政府事業で、35年間に約20,000名の協力隊員が69か国に及ぶ世界各地で協力活動を行っています。現在も、約2,600名の隊員が世界各国で活躍中です。

総務庁青少年対策本部の青年国際交流事業の参加者からも、多くの青年海外協力隊員が出ていることを皆さんはご存じのことと思います。また、国際協力事業団の職員にも既参加青年が多く採用されています。自分の力を海外で役立てたいと思っている貴方！　厳しい試験ですが、チャレンジしてみませんか。

募集期間：平成12年10月15日（日）～11月20日（月）

募集職種：農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、スポーツの7部門、約140職種

募集規模：約800名を募集

応募資格：満20歳（平成13年4月1日現在）から満39歳（平成12年11月20日現在）までの日本国籍を持つ方

派遣期間：2年間（単身赴任／現地生活費・国内積立金等が支給されます。）

選考試験：一次選考／筆記試験（技術、英語、協力隊員適正テスト）と健康診断（書類審査）
平成12年12月10日（日）、各都道府県で実施。
二次選考／面接試験（個人面接・技術面接）と健康診断（検診）
平成13年1月24日（水）～2月2日（金）の指定日（土日除く）に東京で実施。

訓　　練：出発前に約80日の合宿訓練を受けます。

応募方法：所定の願書を協力隊事務局に提出のこと。締切／平成12年11月20日（消印有効）

〔問い合わせ・願書請求〕〒151-8558　東京都渋谷区代々木2－1－1　新宿マインズタワー6F
国際協力事業団　青年海外協力隊事務局　☎03－5352－7261
＊インターネットアドレス　http://www.jica.go.jp/index-jhtml

〔詳細資料の請求について〕詳細資料は、返信用切手390円分を同封の上、次の宛先まで請求して下さい。
（〒163-8696 東京都新宿区新宿郵便局局留　青年海外協力隊事務局宛）

「東南アジア青年の船」とともに来日します！！！

1. 第27回「東南アジア青年の船」On Board Ship Conference (OBSC)代表者（日本滞在12月6日～12日）
ASEAN各国事後活動組織を代表して、フィリピンから日本の間、乗船します。

Country	Name	Batch	Post of AA
Singapore	Mr.Kwa Chee Beng	1992	Director, Social & Recreation
Indonesia	Ms. Meutia Rahima	1991	Director of PR
Malaysia	Ms. Shamsiah Binti Zainuddin	1990	Secretary General
Thailand	Mr.Jirawat Tangkijngamwong	1995	Deputy Secretary General
Vietnam	Mr. Vu Lam Son	1997	Member of the National Coordinating
Philippines	Ms. Reposar Mignonette D.	1979	Board Secretary
Brunei	Ms. Noor Al'Ain Binti Hj.Ahmad	1987	Asst. Treasurer Ⅱ
Japan	Ms. Tomoko Kase（加瀬朋子）	1998	Member

2. 第27回「東南アジア青年の船」ホストファミリー代表者（日本滞在期間12月11日～15日）
参加青年だった時にお世話になった方かもしれません。。。。

Country	Name	Age	Country	Name
Singapore	Mr. Muhammad Agus B.	43	Indonesia	Ms. Retnowati Bambang Widjanarko
	Ms. Sitizainah Bte Sapari	43	Thailand	Ms. Kingkeo W[illegible]ngcruawal
Malaysia	Ms. Ng Siew Luan	43		Ms. Somkid Donchalermsak
	Mr. Razak Bin Marsok	35	Philippines	Mr. Espiritu Magdaleno Jr.
Indonesia	Ms. Lucia Istijah Soetanto	55		Ms. Celianita P. Go

上記プログラムの詳しい日程については、IYEO事務局へお問い合わせください。(miyuki@iyeo.or.jp)

編集後記

航空機派遣と第13回「世界青年の船」参加青年が帰国し、第27回「東南アジア青年の船」が運航されています。韓国、中国の招へいも実施間近ですが、あっという間に今年が過ぎていくようです。21世紀を目前にして、新しいものを生み出しうる期待と同時に先の見えない不安も感じます。平和な世界が広がりますように。

＊本誌の年間講読をご希望の方は、㈶青少年国際交流推進センターまで葉書又はＦＡＸにてお申込み下さい。年間講読料は 1,500 円です。

MACROCOSM（マクロコズム） 11月号 Vol.37 2000年11月1日発行（隔月発行）
編　集：マクロコズム編集委員会
発　行：財団法人　青少年国際交流推進センター
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 2－35－14
TEL 03－3249－0767
FAX 03－3639－2436
e-mail hq@iyeo.or.jp
URL http://www.iyeo.or.jp
編集協力：総務庁青少年対策本部
日本青年国際交流機構
定　価：198 円（本体 189 円）
印 刷 所：株式会社　絢 文 社
TEL 03－3959－3960

課題別視察

第13回「世界青年の船」の国内受入が8月28日～9月5日で行われ、課題別視察、都内視察、ホームステイを基本にした地方旅行等のプログラムが実施されました。そして、9月5日に晴海を出航した「にっぽん丸」は、ロシア（ウラジオストック）、アメリカ（ハワイ）、トンガ（ヌクアロファ）、ニュージーランド（オークランド）に寄港した後、10月23日にシンガポールで全航路を終了し、参加青年は下船後帰国しました。

日本の滞在の中で、外国青年が最も印象深く感じるのがホームステイと課題別視察です。今回の「世界青年の船」では、8コース（裏千家東京道場、清瀬市郷土博物館、池袋防災館、大田区立くすのき園、品川区立上神明小学校、多摩動物園、ジャパンタイムス、全日空機体メンテナンスセンター）の訪問先が組まれましたが、その中から3コースを紹介します。

大田区立くすのき園

▼ 作業手順の説明を受ける

◀ 楽しい昼食の時間です。準備も一緒に

◀すっかり打ち解けて

清瀬市郷土博物館

◀ 力を合わせて初体験

▶ さあ、つきたてのお餅を堪能しましょう！

多摩動物園（シルバーボランティア活動の紹介）

▼ ランチタイムに会話も弾んで

▼ シルバーパワーに感激！

美しい時代へ――東急グループ

旅は暮らしの句読点。

ふと、気づくとずいぶん自分を振り返っていない。ここらでちょっと、ひと息入れて。うれしいことがあった時、何かを成し遂げた時、人との密度を深めたい時…。旅する理由はいろいろありますが、日々の暮らしの中で、少しだけ立ち止まって、自分自身を見つめ直す機会があってもいいのではないでしょうか。私たち東急観光は、信頼され、安心いただける旅のプロフェッショナルとして、お客様の立場になって、ご相談をお受けいたします。さあ、気分を変えて、旅にでましょう。

TOKYU TOURIST

豊かな感動のステージへ――

東急観光

運輸大臣登録旅行業第38号 ©日本旅行業協会正会員

〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目8番1号

マクロコズム　2000年11月号　通巻三十七号隔月発行　定価一九八円（本体一八九円）　編集協力：総務庁青少年対策本部　日本青年国際交流機構

MOPAS

時間によって葉を選び、恋する心をそそぎます。

船旅をこよなく愛した哲学者
ベルジャエルは言っております。
「客をもてなすのは、恋をするのに似ている。
敏感でなければいけないし、また変化も必要だ」
さすがは賢き旅人、巧いことをおっしゃる。
大いにうなずいてしまいます。

と申しますのも、MOPASのクルーズでは、
常にお客様の機微を知り、一日のT・P・Oに合った
おもてなしを心掛けているからです。
たとえば紅茶ひとつをとってみても、
まだ眠気の残る朝には、深いこくのある
《モーニングアールグレイ・ティー》を。
また、ゆったり微睡む午後には、
香りを楽しむ《ヌワラエリヤ》で。
そしてディナーの後のひと時には、
英国女王陛下もお気に入り、《キーマン・ティー》を、と。
それぞれにテイストを変えているのです。
つまり、MOPASは『恋する心でおもてなし』。
これではちょっと言い過ぎでしょうか…。
【海に教えてもらった、海のおもてなし】
海との長い付き合いの中で、
MOPASのクルーズは、
そんなおもてなしの心を守り続けているのです。

※『MOPAS』は商船三井客船の愛称です。

海には海のおもてなし。

MOPASのクルーズ

レジャークルーズのお問合わせはMOPASクルーズデスクへ

商船三井客船　商船三井客船株式会社　〒102-8552 東京都千代田区紀尾井町3-6 秀和紀尾井町パークビル5階
■お問い合わせ、お申し込みはMOPASクルーズデスクへ。フリーダイヤル 0120-791-211